昭和62年3月20日
第32号

大阪産業大学校友会報

発行所　大阪産業大学校友会
〒574 大東市中垣内3-1-1
電話(0720)75-3001(内線2830)
(0720)75-3040(直通)
FAX(0720)75-0398

OSAKA INDUSTRIAL UNIVERSITY

大学キャンパスで総会パーティ
里会長が3選される

第19回 代議員会を開催

《役員改選・昭和62年度予算》

時には大阪市内で代議員会を開いては、ということになり中津の東洋ホテルにて開催した。昭和62年2月14日(土)に代議員会を、翌日の2月15日(日)には支部長会が開かれた。進行は議決事項により、幹事会も同時併行して開催し、効果的に審議を行なった。(幹事会の議事内容の詳細については記載を省く)

議　長　花崎　博美氏（産大3）
副議長　坂本　達彦氏（産大13）

(1)昭和62年度予算について。承認
名簿調査の費用項目に質問があり、編集部の調査費項目に計上している。

(2)その他
積立基金については今後、計画的運用を委員会等で行なう必要がある。数件の要望事項があった。

(3)役員改選について
役員選出内規によって行なう。

①代議員選出、下記のとおり幹事会にて選出した。今年度の卒業代議員と補充は3月下旬に行なう。

②常任幹事・幹事選出
選考委員会、代議員会選出
里会長、村田・眞田・大植・光岡・中山の各副会長
梅木氏、吉本氏、中島氏、加門氏、高見氏

③会長・副会長選出
選考委員会　幹事会
谷口氏、美内氏、遠藤氏、大平氏、大久保氏、武内氏

以上の各選考委員会より推薦された候補者を、各機関によって選出を行なった。里会長が3期目の選出をえた。以下については下記にあげたとおりとなった。なお今回副会長に新たに金住順二氏（産大3期）大阪産業大学、工学部講師が選任された。

④会計監事　再選　代議員会選出
⑤相談役・顧問　再選　幹事会選出

会長　里　昇

副会長(新任)
金住　順二

懇親会

今回は市内ということで、交通の便がよかったからか、これまで最高の81名の出席があった。久しぶりに石川信男相談役（2代目会長）もみえて、昔し話しをなつかしく交わされていた。会議後の疲れをいやすパーティも盛り上り、カラオケもにぎやかに響いた。

役員名簿

（任期　昭和62年4月1日から昭和64年3月31日まで）

相談役
梅田　浩利　交短8期
東芝　立　交短13期
堀川　孝　交短1期
石川信男　交短8期

顧問
林　大行　交短2期
杉岡重武　交短3期

会長
里　昇　交短2期

副会長
村田陽行　交短5期
眞田卓克　交短12期
光岡明弘　交短15期
中山幸蔵　産大1期
金住順二　産大3期

会計監事
大植義夫　産大5期
池田義隆　交短14期
佐吉　交短3期

幹事
辻　治雄　交短1期
高浪洋一　交短14期
大野義次　交短14期
栗生敬五郎　交短12期
浅田弘太郎　交短10期
吉田武則　産大12期
岡　護　産大11期
大瀬戸善典　産大9期
山本　明　産大6期
遠藤誠俊　産大5期
荒木健治　産大4期
花崎博美　産大3期
美内照男　産大2期
川本一雄　交短1期
岡本忠温　交短9期
森本克彦　交短10期
西川　巌　交短13期
谷口義清　交短15期
橋本国俊　産大1期
高杉日出喜智　交短2期
鍋本三郎　交短3期
水戸岡博武　交短3期
吉本定美　交短8期
梅木俊郎　産短2期
御旅屋正勝　産短2期
見浪竹次郎　産大2期
馬込正勝　産大2期
早瀬俊雄　産大2期
中村悠一郎　産大2期
田中善昭　産大2期
磨家正明　産大3期
松本喜一郎　産大3期
渡辺　計　産大3期
吉野由喜男　産大3期
藤田詔雄　交短14期
芦田正之　交短15期
唐津　登　交短15期
木村　寛　交短16期
中島　勲　交短16期
辻　尚武　交短16期
井村一憲　交短16期
青木豊茂　交短16期
山本秀男　交短16期
久保田昌男　産大1期
竹田省蔵　産大1期
小田敏郎　産大1期
山西義彦　産大1期
八幡建二　産大1期
梅原一男　産大1期
梅木俊郎　産短2期
御旅屋正勝　産短2期
見浪竹次郎　産大2期
馬込正勝　産大2期
山本秀男　交短16期
林　茂　産大6期
福岡正樹　産大6期
三浦政治　産大6期
斉木　享　産大6期
得居慶三　産大6期
近藤英司　産大6期
島田成雄　産大6期
太田充紀　産大7期
国吉俊親　産大7期
加門和彦　産大8期
上垣淮三　産大8期
岩下光美　産大8期
大前達彦　産大9期
岸本千代隆　産大9期
高見新一　産大9期
吉岡正澄　産大9期
井上昭　産大9期
椿野勝己　産大10期
下田道彦　産大4期
小間坂隆雄　産大4期
森西　進　産大4期
原田秀康　産大5期
雑賀康先　産大5期
柴田栄久　産大5期
籠谷正則　産大5期
岡野和也　産大6期
本多清吾郎　産大6期
田村静夫　産大12期
尾崎誠宏　産大12期
河井正男　産大12期
野島敏彦　産大12期
坂本達彦　産大13期
岡田幸利　産大13期
松本忠夫　産大13期
谷　克也　産大14期
奥平照吉　産大15期
吉田秀雄　産大16期
横山知子　産大17期
松澤秀樹　産大17期
塚口正人　産大17期
兼松　禎　産大17期
松村哲朗　産短18期
松田裕彰　産大18期
宇崎敏明　産大18期
北野義昭　産短19期
黒川啓次　産大10期

（ゴシックは新任）
（敬称略）

FAX設置
校友会事務局に
ＦＡＸが付きました。
ご利用ください。
0720-75-0398

昭和62年度　予算概要

今年度も受験生の急増期にあるため、臨時定員増などの波及効果により、前年より予算枠は拡大しております。このような経緯の中で金額的な増額部分を積立基金にどう組入れて行くかが、今後の課題となってきております。また単年度の予算と長期計画の関連を今後明確にするということにおいて、今年度収入のみによって経常費がまかなわれるようにしております。

部門予算の特徴

総　務　部　今年度は、前期繰越金をそのまま次期繰越金にあて、単年度収入によって経常費支出を行ない予算が成立するようにしている。

運　営　部　学生助成費において約100万円増額してあり、従来の慶弔費はこの中より支出することとした。

編　集　部　事業費の中に多目的ホールが出来たので、以前に行なっていた講演会を企画し復活した。その他は会員増による経常費増のみである。

支部推進部　支部助成規程の改正を予定しており、それにともなう予算編成にしている。

積立て基金について

今年度の積立基金の扱いは、前年度どおり重用事項があるときのみ補正予算によって行なうことにしている。記念寄贈については、昭和61年度内に実施できるか、昭和62年度にずれこむかはわからないが、大学の大学祭など大きな主催行事の為の大型テントの寄贈について、学園と折衝中であります。これをもって20周年記念の寄付については終了となります。

昭和62年度予算

（単位：千円）

(収入の部)	総務部	運営部	編集部	支部推進部	合　計	
前期繰越金	10,000				10,000	
校友会費	39,000				39,000	62年度入学生(1,950名)
会費収入	36	975			1,011	懇親会参加費
雑　収　入	1,000	200			1,200	寄附金・利息
計	50,036	1,175			51,211	
			預　り　金		20,000	63年度入学生(1,000名)
			合　　計		71,211	

(支出の部)	総務部	運営部	編集部	支部推進部	合　計
会　議　費	1,040	1,590	70	530	3,230
総　会　費		6,350			6,350
通　信　費	530	100	2,808	500	3,938
印　刷　費	250	250	2,500	350	3,350
備　品　費	600				600
旅費交通費	500	430	60	1,200	2,190
慶　弔　費	500				500
消耗品費	300		550		850
会員名簿			1,400		1,400
記念品費		1,800		80	1,880
助　成　金		5,300		1,900	7,200
調　査　費			1,000		1,000
広　報　費		300		400	700
人　件　費	900	900	900	900	3,600
雑　　費	400	400	100	100	1,000
賃　借　費	400				400
事　業　費			500		500
次期繰越金	10,000				10,000
予　備　費	991	580	612	340	2,523
計	16,411	18,000	10,500	6,300	51,211
			預　り　金		20,000
			合　　計		71,211

昭和62年度　積立基金予算

収入の部	60年度　繰　越　金	137,530,395
	61年度　受取利息（子算）	10,000,000
	62年度　受取利息（予算）	10,000,000
	合　　計	157,530,395
支出の部	タペストリー　（昭和61年度）	2,400,000
	合　　計	2,400,000
昭和63年３月31日現在残高(予定)		155,130,395

役員選出内規

第1条（目　　的）
この内規は、大阪産業大学校友会則の第三章第9条の役員選出について定める。

第2条（代議員選出）
代議員の選出は、次の通りとする。
1、役員任期の2ヵ年を満了する者は、その任期中の代議員会の出席が1回以上ある時再任する。
2、欠員補充および新年度卒業によって就任した者は、会議の出欠にかかわらず再任する。
3、代議員としての立候補者、推薦候補者、再任候補者であっても役員人数配分によって卒業年度に片寄りのある場合および校友会活動に積極的な参加がむつかしい場合は選出しない。
4、欠員補充および新年度卒業者の新代議員は、あらかじめ告示し、立候補と推薦を受付けた後、一括して決定する。

第3条（幹事選出）
常任幹事、幹事は代議員中より選考委員会により選出する。この選考委員会は、会長、副会長および代議員若干名により構成する。

第4条（会長選出）
会長候補は、選考委員会により選出する。この選考委員会の構成員は常任幹事、幹事若干名とし、現会長は入らない。

第5条（副会長選出）
副会長候補は会長選任後、選考委員会により選出する。この選考委員会の構成員は新会長、常任幹事、幹事若干名とする。

第6条（会計監事選出）
会計監事は、幹事会で候補者を推薦し、代議員会で選出する。

第7条（顧問・参与・相談役選出）
顧問・参与・相談役の選出基準は次の通りとし、幹事会で選出する。
1、顧　問
●正会員で本会の役員経験者であり、母校ならびに本会に貢献のあった者。
●正会員で社会的功労者であり、母校ならびに本会に著しく貢献のあった者。
2、参　与
正会員以外（会外者も含む）で母校ならびに本会に貢献のあった者。
3、相談役
会長経験者で功労のあった者。

付　則
1、この内規は幹事会の議決により改正することができる。
2、この内規は、昭和55年11月17日より施行する。
（昭和58年5月28日　一部改正）

野球部秋季リーグ優勝

産大野球部がリーグ優勝を昨年かざり、11月15日　リバーサイドホテルにおいて祝勝会を開催した。校友会よりお祝と役員が多数出席した。今年こそは関西代表決定戦に勝ち、神宮をめざしてもらいたい。

支部のページ

第3回　支部長会を開催

前日の代議員会に引続いて2月15日(日)東洋ホテルにおいて、支部長会を開いた。遠くは長崎県支部を始め16支部が参加した。会長を中心に29名の出席によって支部関係について分科会にわかれて話し合った。

◎第1分科会『総会参加を積極的にしてもらう方法について』

各支部の状況説明と紹介をおこなう。もっと支部総会に出席したら何かメリットがあるようにする必要があるのではないか。

◎第2分科会『会員住所の把握と総会以外の活動について』

地域支部と職域支部に事情の違いがあるが、本部の住所調査と支部の、電話による有効的確な調査名簿との間の連絡を充分に取り合って正確な名簿にもって行く必要がある。

◎全体会議

1.支部助成規程改正案について、改正趣旨を説明して、意見交換を行なった。規程の文言に不明確なところがあるので直すこととなった。機関決定は幹事会であるので、決定しだい次号に詳しい内容を掲載します。

2.分科会報告（各代表報告）

その他を含めて、もっと支部をピーアールすることができないか。新聞広告も方法として考えてもらいたい。

遠方より来阪の方もおられたにもかかわらず、熱心に情報交換の場となった。昼食後、声をかけ合って散会となった。

広島県支部結成する

去る10月5日(日)、支部結成20番目として、広島県支部結成総会が、広島ガーデンパレスに於て開催された。

初代支部長に選出された市田義臣氏（交短15期・産大1期）をはじめ22名の会員と、本部から、里会長、眞田副会長、竹田代議員、そして峠常任幹事が出席、無事に議事進行を終え、懇親会では、学生生活の事、近況の交換等、たいへんなごやかに進められた。

中でも女性会員の清木千鶴さん（産大18期）の出席もあったせいか、会場はたいへん明るく、他では見られない懇親会であった。また、私にとって記憶に深い生駒寮々生と会えたことは一方でなつかしさを覚え、出席してよかったとあらためて、感じました。

広島は、広島市・福山市と東西に中心地が分れているので、卒業生の数は多いにも拘らず結成が遅れてしまいました。

これら地理的条件を克服してより一層、すばらしい支部に発展する事を願っています。

（峠　記）

新年会盛大に開催す——大学支部

例年になく暖かい正月を迎え、毎年恒例に催されている大学支部総会および懇親会が1月14日(水)に開催されました。今年は昨年度と同様、多数の会員の出席を目標に会場を梅田の「King of Kings」に移し、大学支部発足以来最多会員数の出席のもと、能瀬支部役員の司会で議長に太田氏、書記に中島氏を選出、金住支部長の挨拶後、議事に入った。総会の主議題である新支部役員選出の件については、金住支部長より前回どおり、3月の臨時総会において役員選出を行うことが提案

され、方法は役員に一任されました。総会終了後、懇親会に移りましたが、今年の会場は梅田という遠距離にあり、また時間設定も午後7時からと遅いにもかかわらず、西島理事長をはじめ大学役職者、多数の来賓のご臨席をいただきました。大学支部懇親会初めての立食パーティー形式で親睦を深めるのになごやかで有意義な宴となりました。

大西副理事長の挨拶の中でも言われてましたが、現在ある20支部の中で中心的存在である職域支部（本大学支部）の充実した活動が大学発展の原動力となります。従って会員数約80名の本大学支部の充実が大学発展につながりますので全会員の団結、協力とともに努力していきたいと思います。

（記　林新）

訃報

更井　信弘氏　永眠
60年度経営学科卒業（昭和61年9月1日）

松本　匡由氏　永眠
57年度土木工学科卒業（昭和61年10月12日）

星島　彰氏　殉職
41年度自動車工業科卒業（昭和61年1月26日）

内藤　幸明氏　永眠
46年度経営学科卒業（昭和62年1月26日）

昭和62年度入試状況
地方受験者急増

昭和62年度大学・短期大学部入学試験は2月3日から6日まで行なわれた。志願者の状況は別表の通りであるが、昨年より四八九七名も増加している。特に経済学部は開設二年目ということで三三六二名増と目をみはるものがある。その中で、一時は減少気味の地方受験者が、今年は二四七九名と前年より約一〇〇〇名も急増している。

地方出身の学生が増えてUターン就職すれば、校友会支部結成及び支部活動に明るい材料と思われる。

昭和62年度 入学試験 志願状況

資料・入試事務室

学部・短大	学科	入学定員	62年度 推薦	62年度 一般	62年度 総数(A)	62年度 倍率	61年度 志願者総数(B)	対比 (A－B)
経営学部	経営学専攻	225	1,814	1,758	3,572	15.9	3,949	△ 377
	交通経営学専攻	225	1,163	947	2,110	9.4	1,852	258
	(学部計)	450	2,977	2,705	5,682	12.6	5,801	△ 119
経済学部	経済学科	200	3,157	2,779	5,936	29.7	2,574	3,362
工学部 I部	機械工学科	120	1,005	911	1,916	16.0	1,831	85
	交通機械工学科	150	1,205	1,659	2,864	19.1	2,589	275
	土木工学科	120	573	979	1,552	12.9	1,190	362
	電気電子工学科	120	1,206	1,376	2,582	21.5	2,142	440
	(学部計)	510	3,989	4,925	8,914	17.5	7,752	1,162
工学部 II部	機械工学科	40	173	131	304	7.6	288	16
	交通機械工学科	100	562	427	989	9.9	695	294
	(学部計)	140	735	558	1,293	9.2	983	310
大学計		1,300	10,858	10,967	21,825	16.8	17,110	4,715
短期大学部	自動車工業科	350	1,270	613	1,883	5.4	1,701	182
総計		1,650	12,128	11,580 (35)	23,708 (35)	14.4	18,811 (19)	4,897 (16)

( )内：留学生志願者数(内数)　対比：△は減　(昭和62年2月)

三重県支部 第4回総会開催

とき　昭和62年3月1日(日) 13時より

ところ　ホテル・サンルート津

新潟県支部 第2回総会開催

とき　昭和62年3月1日(日) 12時30分より

ところ　直江津駅前 ホテルハイマート

福井県支部 第2回総会開催

とき　昭和62年3月8日(日) 13時30分より

ところ　福井駅ビル

運輸大臣表彰に輝く

石川　信男氏

昭和61年10月21日、校友会相談役、石川信男氏が、東京の運輸省において、橋本運輸大臣から表彰状ならびに金盃を直接授与されました。

長年の阪急電車における業績、西宮北口駅長としての貢献や神戸ポートピア博覧会における無事故での大量輸送の完遂など、多年の功績によるものです。校友一同より祝福もう し上げます。

交短8期卒、学園同窓会役員の後第2代校友会会長、㈱法人評議員現在、阪急電車㈱、本社課長(西宮)

チャイム

「シベリア海岸に、リントルペスト(一種の伝染病の名)流行起り、追々蔓延、日本へも伝染すべき有様なれば、この趣き日本政府へ御忠告ありたきなり……。」これは、明治四年六月七日の太政官日誌の一部である。今の日本ではほとんど耳にしない急性伝染病(ペスト)が、ロシア大陸から日本に伝染する兆しのあることを当時の上海出張官が政府に報じたものである。

今、日本ではアメリカ大陸よりエイズ(後天性免疫不全症候群)の脅威に暴されている。いや、現に暴されてしまったのは周知の事実である。エイズの潜伏期間は三年とも五年とも言われており、その感染経路はエイズウイルスを含む輸入血液、ウイルス保有者との性交渉とされている。前者の場合は輸血前のチェック体制が各関係機関により整備されつつあるが、後者の場合は人間の本能的な部分であり、発症でもしない限り事前チェックはとても不可能であるから始末が悪い。

毎日〳〵、新聞・雑誌ではエイズの恐ろしさを報じる記事で溢れている。紳士淑女の皆さん、ここ一番エイズ撲滅のため、自分の健康、末は子孫のため恣意的な行為はつつしみましょう、もうそろそろ厚生省あたりから御達しがあるだろう。まず先に、政府が御達しを出すのは百年前も今もかわらない。ペストを征服したように、まもなくエイズを征服する治療薬が出現するだろう。しかし人間の生命に絶対的な長寿薬といったものは存在しない。エイズの次なる〇〇症候群なるものが出現するであろうことを心すべきである。

(S・T)

卒業にあたり

プロレスと話し方

経営学科
清水　隆君

大阪産業大学での四年間というのは高校の三年間と比べて短かいように思えます。大学生活ではいろいろな思い出が残っていて、中でも二つほど思い出深いことがあります。

一つはプロレス活動のことです。二回生のときに学園祭でプロレスがしたく、学園祭実行委員会の方々に頼み込みました。怪我した場合のことや会場設営のことなど、いろいろな問題がありましたが、何とかやれることになりました。苦労して行なえたからかプロレスの方にたくさんの人達が見に来ていただき大成功でした。

ヤレバデキルこのときの感動は今でも忘れられません。むりをいって学園祭でプロレスをやらしていただき、それを引受けてくれた学園祭実行委員会の方々には心より感謝しています。

そしてもう一つは研究会活動のことです。あるきっかけで四回生のときに言論科学（話し方の科学）というものに巡り合いました。そして言論科学研究会という話し方サークルを作ろうと、週何回か集まりをもつようになりました。話し方の研究や、自己紹介の練習に励み、話して聴いてもらえる人間へと努力をしました。学園祭では展示や自己紹介のし方などの研究発表ができ、初めての研究発表にしては、たくさんの人達に見て、聞いていただき大へんうれしく思いました。話し方をとおして生き方を学ぶという、言論科学のすばらしさを少しでもコトバを話してわかっていただいたと深く信じています。

卒業して行く今、振返ってみると、大学というところは勉強をすることが本業であるが、勉強だけではいけないんではないだろうか、と疑問がわいてくる。

勉強のほかに何か一つに打ち込むべきである。それはクラブなり、趣味なり、何でもいいと思います。そうすればすばらしい大学生活を送れることと思います。私の学園祭でのプロレスと、言論科学の話し方サークルの経験からそう断言できます。

今私は、素晴らしい先生方、素晴らしい友人、素晴らしい思い出をくれた大阪産業大学に感謝、感謝、感謝の気持で一杯です。大阪産業大学を卒業できることを誇りに思います。

「学生時代」

工学部交通機械工学科
笹野健史君

この四年間は、中学、高校の学生時代とちがって、自分にとって一番速く過ぎて行ってしまった時間でした。今思うに、この大学生活、特にキャンパス内での自分は何をやって来たかと考えると、一番先に思い浮かぶことがあります。それはクラブ活動です。学生の本分とも言える、勉学というものは、はっきり言ってあまりやりませんでした。

クラブとして自分は、体育系の日本拳法部へ入部していました。入部の動機は、よくある勧誘で入部しました。もともと体を動かすのが好きだったので、抵抗なしにクラブに打ち解けて行きました。そして四年間、色々と苦しい事もありましたが、その反面、苦しさ以上の大きな、喜びも味わうことができました。卒業する今となって、やっと深いクラブをやった喜びの実感が沸いて来ています。何にか、大きくはないけれど、この大産大に小さい貢献であったかもしれないが、何か足跡を残せたような気がします。

大学生活は、クラブのない日は、アルバイトといった日々が、長く続いたのです。しかし四回生には、卒業研究という物があり、これまでの不勉強に対する付けが一気に回わって来て大変苦しみました。なにがなんでもやらなくてはならない、窮地に立たされました。その結果、洋書も読みました。実験もたくさん行ないました。そして研究発表もしました。やっと卒研を終えた一年間。苦しさの中から次のことを、学ぶことが出来ました。一つの事に対して、少しづつ煮詰めればよい結果が出る。このことは自分にとって大へん勉強になりました。

学生時代、自分としては、クラブ活動、アルバイト、勉強と、割としんどい事が、多かったように思います。それは、それぞれに自分自身のためになったし、また、苦しさの反面楽しかったです。特にクラブ活動をとおして、苦しさの大きさに比例して、その好結果の喜びも大きくなってくることを知りました。これからの生活において、これまでのクラブ経験を心の糧に、ガンバッテ行きたいと思います。

昭和61年度 学生団体助成金

クラブ団体名	支給額
柔道部	440,000
剣道部	335,000
サッカー部	210,000
ラグビー部	226,000
アメリカンフットボール部	247,000
硬式野球部	990,000
応援団	72,000
ヨット部	72,000
サイクリング部	82,000
空手道部	83,000
跆拳道部	70,000
硬式庭球部	95,000
日本拳法部	135,000
バスケット部	54,000
弓道部	54,000
洋弓部	75,000
ボディビル部	50,000
ゴルフ部	62,000
硬式合気拳法部	20,000
卓球部	31,000
巍桜流拳法部	52,000
少林寺拳法部	47,000
ライフル射撃部	22,000
山岳部	22,000
自動車部	36,000
観光研究部	74,000
ユースホステルクラブ	68,000
落語研究部	117,000
吹奏楽部	72,000
内燃機関研究部	72,000
無線部	44,000
単車部	50,000
美術部	36,000
写真部	23,000
鉄道研究部	40,000
合計	4,178,000

「学園創立60周年並びに大学開学20周年記念募金について」

今西　信博（産大7期）
少林寺拳法ＯＢ会
（代表田中武雄）
田中　武雄（産大3期）
真田　卓克（交短12期）（産大1期）
谷口　義清（交短15期）
田中　善昭（産大2期）
水戸岡博武（交短3期）
石川　信男（交短8期）

（敬称略、順不同）

昭和60年4月1日から、昭和62年3月31日を募金期間として行なわれている右記の記念事業募金に対して、ご協力をいただいた校友会関係者（61年7月1日以降）は次の通りです。

ご結婚おめでとう

10／6	堀岡　俊宏さん	交機10期卒
10／12	福岡雄太郎さん	土木5期卒
10／12	宇都宮和明さん	土木17期卒
10／19	泉尾　泰嗣さん	土木16期卒
10／26	恵　茂人さん	土木15期卒
11／2	南野　隆夫さん	交機II10期卒
11／3	村崎　一弘さん	交機13期卒
11／3	南　吉郎さん	土木14期卒
11／9	久保　聖司さん	交機II17期卒
11／9	横尾　達郎さん	交機16期卒
11／3	和華　英俊さん	交機2期卒

笑三から三喬へ ―― 襲名

昨年、大学開学二十周年を迎え、記念すべき年に、本学園で、校友会総会パーティ（昭和61年11月2日、日曜日）が開催されました。当日は、学生主催の『阪駒祭』が行なわれており、OB現役学生と入り雑じり学園全体がお祭り気分に盛り上がった。

このような雰囲気の校友会総会パーティで、話術の端々に大物の片鱗をうかがわせたのが、司会の大役を務められた笑福亭笑三さん（本名、井田達夫氏、15期交機卒、坂本研究室）である。この度、笑三より笑福亭三喬（さんきょう）に改名することになった。師匠である笑福亭鶴三さんも、六代目笑福亭松喬（しょきょう）を襲名することになりました。

亡き大師匠笑福亭松鶴さんの墓前に師匠とともに改名報告をした記事が、毎日新聞（昭和61年12月20日）に掲載されました。

伝統ある上方落語会の世界で、亡き大師匠の笑福亭松鶴さんのように、後世に名を残す芸人になりますよう、にこそ在るのだなと思った。押しかけられる先生方は大変でしょうが、在学生諸君もこんな事をやってみてはどうですか？

さて卒業される皆様は、学生生活に別れを告げ社会人となられる訳ですが、ここには明確な〝ケジメ〟が必要な訳です。〝ケジメ〟に関して次のような経験を紹介致します。卒業も近くなってきた頃、私は迷惑をかけた花光先生の所へ菓子を土産に持って行った所、「こういうものをいただく理由は何一つない」と断わられた。このあと実にタイミングよく「しかしいただいておこう」と言って納めてもらった。その後私は卒業した。卒業して一、二年過ぎた頃、突然先生から葉書をいただいた。変体仮名まじりの文面で少ししか書いてないけどすぐには読めない。何とか読むと「デパートより菓子をおこせました、食べてください」という文面だった。突然の便りをいただいたのがなつかしくて嬉しかった。更に以前の菓子のお返しが来るとは思ってもいなかった。私は「そうだ人を驚かすのがほんとに上手な先生だ」という事を忘れていた。先生の顔を思い起こしながら感激した。

この話には続きがある。この後しばらくして先生が亡くなられた。例の葉書を再度とり出して読んでみると、これは死ぬ前のベッドの上で書かれたものだとわかった。ベッドで力の入らぬ手で菓子をおこせと書いてはいるが本当は「菓子を送らせました」だったんだ。そうとわかったとき突然にどっと涙が出た。何んと先生は死ぬ時まで完璧な清算をした人なのだろうか、それとも神経が髪の先まで行き届いたようなケジメをつける人なのだろうか。いずれにしても亡くなる直前まで私の事を憶えていてくれたことは確かである。私に先生は「お前は優柔不断な野郎だから、ケジメをしっかり付けろ」と身をもって教えてくれたのです。この思い出は私がボケ老人になった時でも忘れない。

花光先生は、よく気を配られ、うまく人に印象付け、まとめて人生のケジメを付けられた先生でした。これからの人生には、多くのケジメを付けなければならない時があるでしょう。そんな時自分を見失なわず、東大の金時計を持っておられた花光先生のように実にうまいケジメを付けていきたいと思います。

学生時代の思い出

白藤　中生氏
（44年交機卒）
舞鶴工専講師

昭和40年だったでしょうか、夜、3号館の真暗な階段を転げないように手摺づたいに降りて行った。前に幽霊ではないが、見てはいられない位ヒョロヒョロと降りて行く人があった。どう見ても爺様だ、危ないと思った私は、手を引いて明るい所まで一緒に行って別れた。その人、実は故花光健二教授であった。人は外観で判断してはいかんなと反省した。

この時の縁で先生の研究室までよく遊びに行った。「先生、浪花節と浪曲とはどう違うんですか」などと人の迷惑を返り見ず、くだらぬ話を持ち込んだりした。要は先生の所へ遊びに行くのが目的だった。東大の金時計の話、新聞社における社会部の話、グルメやゲテ物の話等々何を聞いても私の知らない興味深い話しばかりだった。大学生活の良さはこんな所

笑福亭三喬さんに、皆様方の心温まるご支援のほど、お願い申し上げます。

『今年も出席しよう』

昭和62年度
校友会総会の案内

●日　時　昭和62年11月1日(日)（創立記念日）
●場　所　東洋ホテル　地下鉄御堂筋線中津駅に直結

ひとことだより

出口　政仁氏（47年度経営卒）

前略、二十周年おめでとうございます。昭和四十八年経営を卒業致しました。当時、長野県聖高原にありました、学生寮はまだ健在でしょうか。又、他にも保養施設がございましたら、御紹介頂ければ幸いに存じます。料金、宿泊条件等も知りたくよろしくお願い申し上げます。

下山　博司氏（47年度経営卒）

鳥取県支部結成時には、お世話になりました。少数の出席者ではございましたが、今後より多くの参加者を集うよう努力致しますので宜しく御協力頂きますようお願い致します。今後の御発展を祈るとともに、微力ではございますが、お力に成れることが御座いましたらいつでも協力させて頂きますので御連絡下さい。

まずは、お礼にて失礼いたします。

中西　光弘氏（48年度短自卒）

校友会役員の方々、どうも御苦労様でございます。卒業してから、すでに十二年もあっというまにすぎ、子供も二人出来まして、仕事にはげんでおります。現在、岩出町内の南海紀の川岩出自動車学院にて、運転指導しております。短大で学んだことが、大変役立ち、産大を卒業してよかったと思います。時間があれば総会に出席したいと思っています。

11／23	奥田　雅文さん	経営12期卒
11／24	森浦　光一さん	土木14期卒
11／30	東　博一さん	交機10期卒
12／14	森　宣夫さん	土木12期卒
12／14	飯田　聡　さん	交機12期卒
1／26	野口　広治さん	土木16期卒
2／14	中島　成和さん	経営15期卒
2／14	水谷　康彦さん	交機II14期卒
2／22	猪西　敏充さん	機械15期卒
2／28	井口　賢一さん	経営12期卒
3／15	永宮　一宏さん	土木15期卒

昭和61年度 校友会総会の開催

久しぶりに大学キャンパスにて総会を開催する。
昭和61年11月2日(日)
場所　本館　多目的ホール
第18回　代議員会
議事その他　ホールの校友会寄贈の緞帳披露も合せて行なった。

にぎやかに懇親パーティ

場所を体育館に移して、懇親の宴がもたれた。来賓の方の祝辞につづいて、卒業生の落語家、笑福亭　笑三さんの司会による余興が始まった。楽しく、おもしろく、ゲームに参加した子達も大よろこびであった。

今年の支部旗の贈呈は鳥取県支部（吉本さん）広島県支部（市田さん）へ渡された。今年はキャンパスを見たいと、遠方からみえている方も多い。

ショーは中村美津子の演歌、河内音頭と帰ってこいよ、に熱気もグーンと上った。恒例の福引大会も人気が定着してきた。いつもの特賞の他、約25本程も景品が出たので当った人は大喜びであった。校歌を歌い万才三唱やらでにぎやかにパーティの終宴となった。

その後、開催中の大学祭の模擬店にどっと人がくり出した。家族づれの校友は子供へのサービスにこれつとめる光景となった。久しぶりの大学キャンパス卒業してからの年月を勘定することになったようである。恩師との交歓、学生時代の教室が見たいと歩き回る方も多い。大学祭の思い出と昔しの味をなつかしく思い、また模擬店のビールに食べ物へと手ものびる。楽しい産大キャンパスのひととき